

実践団体情報

記入日	2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	ガールスカウト東京都第 172 団
代表者名	北崎 裕紀子
プラン全体のタイトル	そなえよつねに！ガールスカウトのチカラで防災ポーチとヘルプマークを広めよう！
電話番号	090-6701-1776
メールアドレス	midori.k0811@nifty.com
実践団体の説明	当団は、宗教や事業者などの母体を持たないガールスカウト団体である。現在小学生から高校生までのスカウト約 20 人とその指導者、保護者など約 40 人で、月 2 回の野外活動やボランティア活動に取り組んでいる。ガールスカウト活動は、スカウト自身が PDCA サイクルを実施し大人が支援することが特徴である。当団は、連盟だけでなく社会福祉協議会、環境団体、商店会などと連携してスカウトが地域で SDG s 活動を活発に進めていることが特徴である。
所属メンバー	団委員長 北崎裕紀子 高校生部門指導者 2 名 他部門指導者 3 名 高校生スカウト 4 名 小中スカウト 15 名
活動地域	東京都練馬区他
活動開始時期・結成時期	1980 年発団
過去の活動履歴・受賞歴	2018 年 ガールスカウト日本連盟主催コミュニティアクションチャレンジ コミュニティアクション賞 (銀賞) 受賞「ヘルプマークを広めよう！」 2020 年 ・脱炭素チャレンジプラン 2020 ニトリ最優秀夢・未来賞 受賞「ガールスカウトのチカラでみどりを守る人を増やそう！」 ・ガールスカウト日本連盟 活動賞受賞

<p>プラン全体の概要</p>	<p>2018 年に、中学生だったスカウトたちが、ガールスカウト連盟の防災教育の実施例集にある、通学や外出時の災害に備えていつでも防災品を持ち歩く「防災ポーチ」の集会を企画、実施した。東京は電車通勤・通学が多く、女性は化粧品や衛生品をポーチに入れて持ち歩くので、必要性も高く取り入れやすい活防災活動だ。一方、彼女たちはヘルプマークを広報する活動で受賞した。</p> <p>2019 年、受賞後の展開としてヘルプマークを持つ人に貢献するよう「防災ポーチ」を安価な商品にして地域で販売し収益を福祉団体に寄付する活動を企画した。「寄付付き商品」としてヘルプマークの広報と防災ポーチの普及活動を兼ねる活動である。中学生スカウトが小学生スカウトや保護者を上手に巻き込んで 2 回のお祭りで 100 個のポーチを販売し、寄付をした。</p> <p>2020 年、スカウトが高校生に進級した。女子高校生が、災害時の多様性への配慮などを学びながら発信し、地域の防災意識の向上、災害の軽減につなげることを目的として活動をした。男女参画センターを訪問し、多様性に配慮した避難所の在り方を学んだ。また、スカウトが日本連盟のプロジェクトの一員として内閣府の第 5 次男女参画基本計画の防災章のパブコメを発信した。その学びから 2020 年度の防災ポーチに女性の災害後の安全のためにホイッスルを入れて、その意味を書いた防災カードを新たに作って 20 個販売した。防災ポーチの普及活動を主軸に、スカウトが様々な活動を実施したので、下記のようにまとめた。</p> <p>A：団内の活動 B：ガールスカウト連盟の活動 C：地域活動 D：外部団体の活動参加 E：スカウト通学先との連携</p>
-----------------	---

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	防災ポーチの見直し A	スカウト打ち合わせ	リモート集会
5月	在宅避難時の食事 A	スカウト打ち合わせ	毎日記録、考察発信
7月	防災教育講座受講 D	エントリー	スカウト受講
8月	練馬区えーる訪問 A 公衆電話集会 A 社協ボランティア D K 区スカウトと会議 B ポスター、カード作製 E 日本連盟事業 B	センターと打ち合わせ スカウト打ち合わせ エントリー、打ち合わせ スカウトが事前訪問 スカウトが打ち合わせ スカウトが PJ 参加	避難所と男女参画を学ぶ スカウト企画集会実施 防護服作製寄付、社協訪問 リモート会議実施 完成、チラシへ展開 男女参画パブコメ発信
9月	防災ポーチ販売 C 防護服寄付 C 練馬区社協防災会議 C	他団体調整、事前広報 高齢者施設へ提案	スカウト企画、20 個販売 10 セット寄付 責任者参加
10月	防災公園集会 A 日本連盟事業 B	実踏・公園打ち合わせ スカウトが PJ 参加	小学生スカウト参加 リモートイベントで発信
11月	救急法集会 A こども新聞発行 C ロングウォーク A	指導者で打ち合わせ 他団体と打ち合わせ 実踏 4 回、打ち合わせ	小・中学生スカウト参加 2,000 部発行 約 25 キロ完歩
12月	地域広報活動 C コンテスト受賞式 E 東京都連盟事業 B	スカウトと打ち合わせ 学校に許可頂く スカウトが企画書提出	社協、商店訪問 首都圏ブロック賞プレゼン リモートで発信
1月	広報活動 C		商店にチラシ配置
2月	防護服・公衆電話集会 A	スカウトが企画計画	スカウト企画

プラン全体の反省点・課題・感想	スカウトが機会を逃さず、連盟や地域で積極的に活動した。指導者が小中学生スカウト向け防災集会を実施した。緊急事態宣言で高校生が指導者になる集会を開けなかった。
-----------------	--

今後の活動予定	地域・連盟で防災ポーチの普及や多様性に配慮した防災活動を続ける。高校生から中学生小学生へ活動を継承する。
---------	--

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	ガールスカウト東京都第 172 団
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	20200401A
タイトル	そなえよつねに！わたしの防災活動を発信しよう！ ① マイ防災ポーチの見直し ② 在宅避難の食事と栄養日記
実践担当者のお名前	北崎裕紀子

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	1 時間
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 4 月 5 日～2020 年 5 月 31 日
実践の所要時間	10 時間
実践の運営側で動いた人の人数	6 人
防災教育の対象者の属性	小学生、中学生、高校生
防災教育の対象者の人数	16 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区など
実践を行った具体的な場所	各自の自宅
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	高校生はスマホ、ラインアプリ。 小学生・中学生はパソコン、zoom 保護者の手伝い

達成目標	(1) スカウト、指導者がオンライン集会に慣れる (2) 自宅でできる防災活動を発信する (3) ガールスカウト日本連盟 STAYHOME バッジ取得	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

(1) 準備 4月

指導者でリモート会議実施。スカウトともリモートで集会をすることを決定。高校生スカウトは既に防災ポーチの見直しを行い、グループラインで写真を送りあっているため、中学生、小学生スカウトも実施することにした。



(2) 実施 4月5月

小中学生は zoom で集会開催。保護者から写真とスカウトの感想や様子を送ってもらい、ブログに載せた。

高校生は毎週 1 回 1 時間、指導者 3 人とスカウト 4 人でグループ電話会議を実施。

防災ポーチだけでなく、料理する機会も増えたので、食事の写真と簡単な栄養のレポートをグループラインに UP しあうことにした。ほぼ毎日実施。中学生のころ健康と栄養の取り組みで、鉄分だけは男性より女性の方が多く摂取することが推奨されていることに気が付いたスカウトから、鉄分に注目してはどうかと提案があった。鉄分を取り入れた食事を心がけ毎日 UP しあった。6 月から登校が始まったので、リモート集会は中断した。

活動はブログで発信し、区役所の SNS と地域ニュースの誌面で紹介された。





(3) 6月

防災ポーチを実際に毎日持って登校し報告しあった。重すぎたので見なおした、友達に絆創膏を貸して喜ばれた、などの感想が寄せられた。

(4) 8月 夏休み

小学生スカウト家庭にも鉄分を取り入れた食事の写真の提供を声かけし、2家庭から取り組み写真の提供があった。

高校生スカウトの集会で今後の食事と栄養の取り組みをどうするか？話し合った。高校生スカウトからは、区民館で調理実習ができるようになれば、在宅避難時の食事作り集会を開催する案が提案された。しかし、2学期以降のスカウトたちの学校スケジュールがタイトで現在まで具体的な計画、実施には至らなかった。

(5) 9月以降

小学生中学生はリアルな集会をしているのでリモート会議は中断している。

高校生は、指導者とスカウトの面談にリモートを利用して、個別の課題の進捗状況の確認や指導に利用している。遠方に住むスカウトの友人からデータで防災ポーチのポスターや防災カードのデザインを送ってもらうなどスカウト活動にも当たり前前にデジタルが取り入れられることになった。また、集会計画書の共有やボランティアで作成した折り紙作品の共有などにグループラインを利用している。

なお、4月、指導者からスカウトにリモートやグループラインでのマナーやルールの指導をしている。

得られた成果	コロナ禍で初のオンライン集会を開催し、オンラインでできることを探し実践した。スカウトだけでなく指導者のチャレンジになった。高校生スカウトは、防災教育だけでなくその後の活動になくてはならないツールになった。活動で参加スカウトは、日本連盟の STAYHOME バッジを取得し、達成感が得られた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	小学生、中学生スカウトの指導者からは、リモート集会にはできることが限られる、リアル集会のようなスカウトののびのびとした態度が見受けられないとの意見があった。小学生保護者からはリモート集会後はスカウトのイライラが減ると話があった。チームが一つのテーマに取り組んで発表する良い機会になった。学校生活が始まり、食事の取り組みは中断せざるをえなかった。	
★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ		
伝えたい相手	地域の子供団体、学校	
伝えたい内容	リモートで会議をし、チームで一つのテーマに取り組むと達成感と自己肯定感が上がる。グループラインのマナーやルールを学ぶ機会になる。	

記入日	西暦 2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	ガールスカウト東京都第 172 団
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	20200801A
タイトル	男女参画共同センターで災害時の多様性を学ぼう!
実践担当者のお名前	北崎裕紀子

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
	3 時間
実践活動を実施した日時	2020 年 8 月 21 日 13 時 30 分～16 時 30 分
実践の所要時間	5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	1 人
防災教育の対象者の属性	高校生、その指導者
防災教育の対象者の人数	6 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区
実践を行った具体的な場所	練馬区男女共同参画センターえーる
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	練馬区男女参画共同センターえーるコーディネーター ジェンダー教育の知識と、防災と女性のパネル

達成目標	(4) 男女参画センターを訪問し役割を学ぶ (5) 女性と防災、災害時の多様性を学ぶ (6) 今後の防災教育活動の計画を立てる	
どの力を身につけようとしていましたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>(1) 責任者訪問、打ち合わせ</p> <p>2020 年 2 月練馬区主催のイベント出展時に団 OG の方がセンターの運営に関わっていると知った。団責任者がセンター訪問し、コーディネーターに館内を案内して頂いた。女性と防災の視点からのパネルをたくさん所蔵していることが分かった。スカウトを連れて再度訪問のお願いをし、承諾された。</p> <p>(2) 感染症拡大に伴い緊急事態宣言発令</p>	

年度変わりでの宣言で、新年度の高校生スカウト 4 人と新指導者を含む指導者 2 人と責任者で、これまでの防災ポーチなどの活動を発展させる方法の話し合いや男女参画センターの情報提供などの集会が開けなかった。リモートや電話会議の経験も少なかったので、手始めに今できる活動として、指導者主導で高校生スカウト 4 人、団責任者、担当指導者の計 7 人で LINE 電話会議を毎週開催して防災ポーチの見直し、在宅避難時の食時記録と栄養の考察などに取り組み、遠隔での意思疎通と一定の活動、防災への興味の継続などを図った。

(3) スカウト、指導者センター訪問

2020 年 8 月、短い夏休みに日程調整をして 4 人のスカウトと 2 人の高校生部門担当指導者と団責任者がセンター訪問。コーディネーターから館内の案内とセンターの役割、日本のジェンダーギャップ指数など男女参画の歴史を教えて頂いた。スカウトが驚いていた。スカウト・指導者が感想文を書いてセンターに提出した。



(4) 今後の活動計画

会議室をそのまま借りて団内で今後の活動計画を立てた。

- ① 公衆電話使い方集会の実施
- ② こども新聞に防災と女性の記事を書くこと
- ③ 「在宅避難時の食事と栄養」の発展

などが話し合われた。スカウトから当日の報告書と①の集会計画書が指導者に提出された。(20200802A に続く)

<p>得られた成果</p>	<p>実際に訪問することで施設や窓口の役割を知ることができた。ガールスカウトが防災教育に取り組む意味をスカウト、指導者で共有できた。今回の防災教育チャレンジプランの実質的なキックオフになり、その後の下記のスカウトの自主活動のきっかけになった。</p>
---------------	---

	<p>① 居住区の男女共同センターへ訪問し、練馬区との違いや、ジェンダー平等への取り組みなどを学び、学校の課題で発信した。</p> <p>② ガールスカウト日本連盟主催のチームにエントリーし、男女参画の第 5 次計画や女性の視点での防災を学びパブリックコメントとして発信した。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<p>実際には、その後 2 学期になり高校 1 年生のスカウト 4 人はスケジュールがタイトになり、公衆電話集会以外の集会開催には至らなかった。そのため、できるときにできるスカウトが活動するスタイルに切り替えた。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	練馬区男女共同参画センターえーる
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	高校の先生、ガールスカウトやボーイスカウトなどの地域団体
伝えたい内容	センターは、地域によって女性相談だけでなく男性などの相談も受け付けている。女性向け以外の講座も実施されている。大人になってから性別が変わる例もある。そのような行政サービスを知ること、防災教育だけでなく環境教育など他の教育に取り組むときにも常に男女参画の視点ではどうか？を考えることにより、より現実に即した複合的な学びの機会になると考える。

記入日	2021年1月15日（2020年度のチャレンジプラン）
実践団体名	ガールスカウト東京都第172団
実践番号（団体内・年度内の通し番号）	20200801A
タイトル	そなえよつねに！高校生ガールスカウトが小学生向けに行う防災教育講座
実践担当者のお名前	高校1年生 みらいちゃん、こころちゃん ※当団では個別のスカウトの名前をガールスカウトのキャラクターの名前にして表示しています。

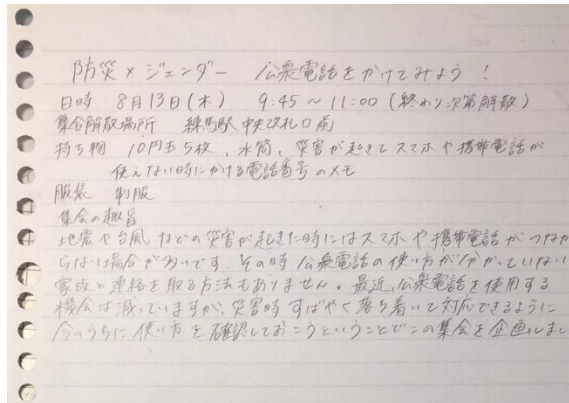
実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	1時間
実践活動を実施した日時	2020年8月13日9時45分～11時0分
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	5人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約3人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区
実践を行った具体的な場所	西武池袋線練馬駅中央改札口前公衆電話
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	荒川区社会福祉協議会サマーボランティア「ごみ袋で防護服を作ろう」 ゴミ袋で作るガウン - YouTube

達成目標	(1) 高校生が防災教育の集会を企画実施、報告をする。 (2) 高校生が小学生向けの集会に展開する。 (3) 地域に発信する	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
実践内容・方法	(1) 相談⇒計画（会議室で相談）8月 高校生スカウト4人が、相談した。2020年度の夏休みはコロナのため最短のスカウトで2週間しかない。互いのスケジュールを踏まえて限られた期間でできる防災の集会を考える。	

みらいちゃんから公衆電話の使い方を小学生に教える集会を持ってはどうかと提案があった。早速こころちゃんが計画書を書いて指導者に提出した。

※実際には急な発案だったため小学生スカウトは集合できなかった。

計画書

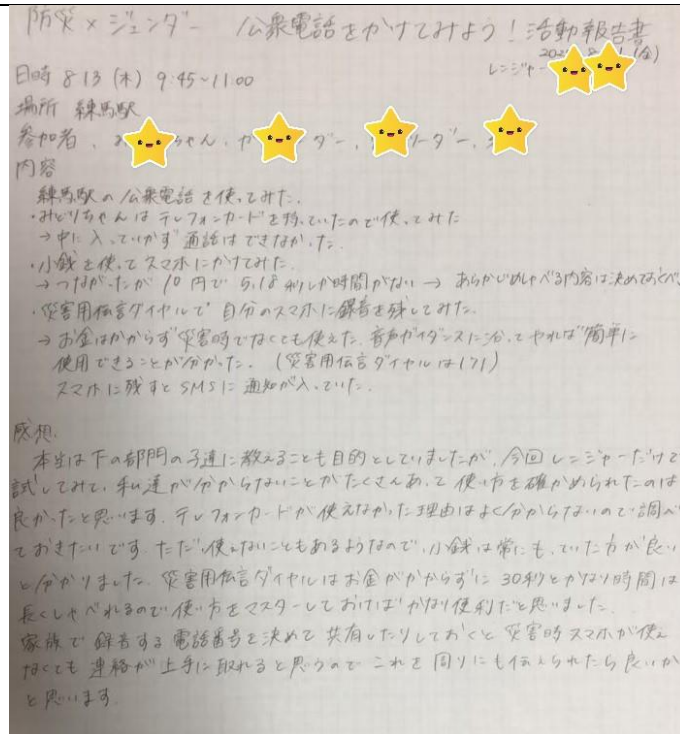


(2) 実施

3人のスカウトと2人の指導者が集合した。各人が交代で家族へ発信した。テレホンカードとコインで試したが、カードはなぜか使用できなかった。



(3) 報告書 作成⇒指導者からの評価



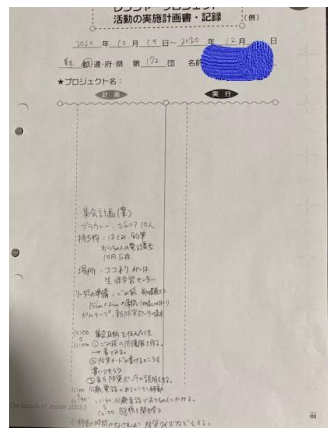
(4) 次回計画 1 (10月)

こころちゃんが2020年8月にスカウトが荒川区社会福祉協議会のボランティアサマースクールの中で、介護施設にポリ袋で作る防護服を送る企画に参加した。

[ゴミ袋で作るガウン - YouTube](#)

また、防災ポーチに入れる防災カード新しく作った。こころちゃんが、小学生向け集会計画書を指導者に提出した。

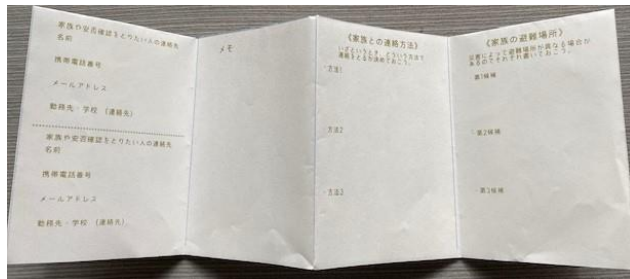
- ① 防護服作り、
- ② 防災ポーチの中に入れる防災カードを小学生に書いてもらう、
- ③ 女性の災害時のトイレ対策として各スカウトの防災ポーチに黒ポリ袋を追加するしようと伝えて袋を配る



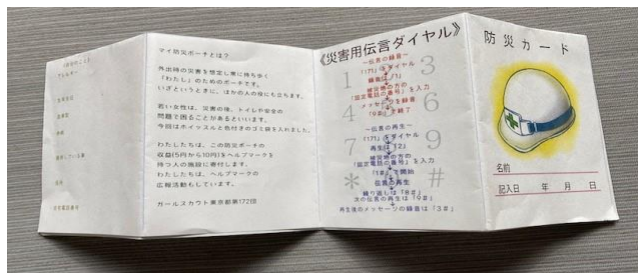
★主な活動内容(予定)

活動内容	期 間	担 当	予 算 費 用
1. 12月17日(土)の クリスマスパーティー	12月17日
2. 12月24日(土)の クリスマスパーティー	12月24日
3. 12月25日(日)の クリスマスパーティー	12月25日
4. 12月26日(月)の クリスマスパーティー	12月26日
5. 12月27日(火)の クリスマスパーティー	12月27日

防災カード裏



防災カード表



(5) この計画にみらいちゃんの公衆電話使い方講座を含めて新たにみらいちゃんが計画を立てた。(グループラインで相談、決定) 12月

期 間	内 容	担 当	注 意 事 項
12月17日(土)	クリスマスパーティー
12月24日(土)	クリスマスパーティー
12月25日(日)	クリスマスパーティー
12月26日(月)	クリスマスパーティー
12月27日(火)	クリスマスパーティー

(6) 高校生担当指導者が他の部門の指導者に計画を共有、2021年2月に開催予定をたてて、区民館会議室を予約したが、緊急事態宣言を受けて延期となった。

得られた成果	スカウトが防災の技術や女性の視点での防災教育を学び、それを集会にして小学生に伝えることにチャレンジできた。指導者がそれをフォローすることができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	高校生スカウトの学校のスケジュールがタイトで、2 学期中は進捗せず、再度の緊急事態宣言を受けて小学生向け集会は期間内に実施できなかった。この集会をリモートで実施できるか？指導者とスカウトと検討していきたい。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	中学高校の先生、子供向け地域活動の主催者
伝えたい内容	高校生が小学生に教える防災教育集会を開催することで、教える側、教わる側双方の教育になる。小学生向け防災教室は、保護者への教育も兼ねるので地域の防災スキルアップの効果が高い。

記入日	2021 年 1 月 15 日（2020 年度のチャレンジプラン）	
実践団体名	ガールスカウト東京都第 172 団	
実践番号	20200901C	
タイトル	SDG s 活動を複数実践 そなえよつねに！寄付付き防災ポーチを販売しよう！	
実践担当者のお名前	高校 1 年生スカウト みらいちゃんとその学友 ※当団では、個別のスカウトの名前をガールスカウトのキャラクターにちなんで「みらいちゃん」と表します。	
実践にかかった金額	3 万円未満	
実践の準備にかかった時間	2 日	
実践活動を実施した日時	2020 年 9 月 27 日 8 時 30 分～2020 年 9 月 27 日 12 時 30 分	
実践の所要時間	4 時間 30 分	
実践の運営側で動いた人の人数	4 人	
防災教育の対象者の属性	地域住民	
防災教育の対象者の人数	約 20 人	
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区	
実践を行った具体的な場	練馬区平成つつじ公園	
★実践に必要な特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	ねりまキッズボランティア責任者（フリーマーケット申し込み、フリーマーケット主催者にポーチの中身（マスクや絆創膏）の販売許可確認など、団体が所属するメーリングリストなどでの広報活動）	

達成目標	(1) 高校生スカウトが集会計画を立てて実行する (2) 災害時の多様性を学び、発信する (3) 寄付付き商品として販売し、福祉施設に寄付する	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法

(1) マイ防災ポーチを知る、マイ防災ポーチを持つ (防災教育)

防災ポーチとは、外出時の災害を想定して、自分のための防災用品をいつも持ち歩くためのポーチのこと。カバンにホイッスルやライトをつける例などもある。あなたなら何を持つ？と実際に友達同士見せ合い、なぜあなたはこれを持っているのか？を聞きあう。数週間、1 か月持ってみて実際に使った経験も聞きあう。重すぎた、ケガした友達のために防災ポーチの絆創膏を渡して喜ばれたなど。自分だけでなく隣人のためになり、いざというときの減災、災害の軽減につながることを話し合う。

※当団は5月にリモートで各スカウトのマイポーチ見直し実施

※高校生、小学生、防災ポーチの例



(2) 防災ポーチの販売計画その1 (消費経済教育)

地域の市民館祭りなどで防災ポーチを販売し啓発する場合、どのようなものを入れたらよいかを話し合う。どのお祭りに出店するのか？お祭りに来る人のニーズに合わせた価格設定、内容、販売数、販売時の注意点を確認する。薬品や食品は販売できないなど。※今回はフリマなので 200 円に設定。

(3) 防災情報調べ (防災教育、ジェンダー教育など)

内閣府や地域が防災用品として備蓄奨励しているものや被災者の声や避難所が抱えている問題などを確認し、ポーチに入れる商品を選ぶ。※当団は男女参画センター訪問、内閣府男女参画局の「災害対応力を強化する女性の視点」を読んだスカウトの発案で商品を選んだ。

(4) SDGs (エシカル消費)

SDGs の具体的な活動事例を学ぶ (フェアトレードなどのエシカル消費など。消費者庁などの HP にある。) 防災ポーチの販

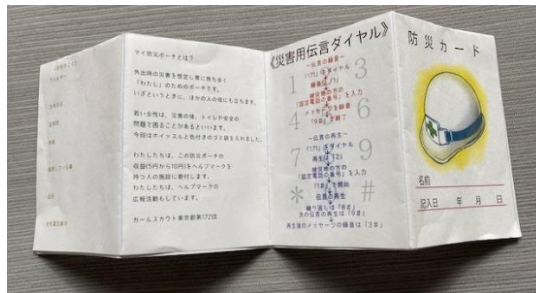
売で付加価値を付けられないか？話し合う。例えば、商品のコンセプトを書いた紙を入れて子供向けにすれば、4（教育）女性向け商品を入れれば5（ジェンダー）、収益を地域の福祉施設に寄付すれば3（健康と福祉）など。



今回のポーチ ポーチ：100円ショップのもの

黒ポリ袋（女性のトイレ対策）マスク、ホイッスル（災害時、災害後の安全対策）防災カード（作成）絆創膏、

当団の場合は、ヘルプマークを持つ人の就業施設に収益を寄付する、寄付付き商品として販売する。それを防災カードに記載しカードも含めて販売する。



高校生スカウトが学友にデザインを依頼しポスターも製作。



(5) 防災ポーチ販売計画その2（消費経済、SDGs）

役割分担や予算を立てる。仕入れや釣銭や領収書の準備。売れ残った場合も話し合う。※今回は次回販売の予定が立たないので20個のみ用意した。

(6) 広報活動（経済）

この活動をより広く地域に知ってもらう方法を話し合う。
ケーブルテレビ、学校新聞、市報、ラジオ、SNS で発信など

(7) 販売実施

団ののぼりとチャレンジプランののぼりをたてた。完売した。



(8) 振り返り

スカウトが指導者に報告書を提出した。ホイッスルが高額のため実質的な収益は出なかったが、今後支援金と調整して寄付金額を算出し、寄付に行く予定。

(9) 発信

ケーブルテレビで放送され、こども新聞の記事として発信した。ボランティア・スピリット・アワード全国大会で発進。

(10) 発展

スカウトは「ホイッスルのいない避難所にしたほうがよい。」ことに気が付いて次の活動につなげている。

得られた成果

チャンスを生かして急遽、スカウトが計画、準備、販売をした。消費経済と防災、ヘルプマーク、男女参画の学びと活動を一度に発信し、それぞれの異なる専門家に活動を知ってもらえた。スカウトや協力した高校生の達成感が得られ、その後の発信活動のはずみになった。

どのくらい身につきましたか？

知識・技能

大いに

思考力・判断力・表現力

大いに

学びに向かう力・人間性

大いに

課題・苦労・工夫	コロナ禍で公共イベントが中止になり販売が危ぶまれたが、関連団体のご配慮で急遽フリマで販売できることになった。高校生スカウトの日程調整がつかず、スカウトが学友に協力を求めて出店した。小学生スカウトは別の集会で参加できなかったので活動の継承ができなかった。指導者は、釣銭の手配や机やのぼりなど車での運搬の他、SDG s 教育であることを事前に幅広く広報する。まとめ買いや予約も受け付ける。良く売れるとスカウトの成功体験になり、活動が発展する。
----------	---

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	ねりまキッズボランティア
関係者の説明	ねりまでこどもがボランティアをするサークル
関係者の連絡先	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	練馬区男女共同参画センターえーる
関係者の説明	避難所での男女参画の問題点を学びに行った
関係者の連絡先	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	特定非営利活動法人松の実事業所
関係者の説明	障害者 B 型就業施設 防災ポーチ収益の寄付先
関係者の連絡先	


★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	全国の地域団体指導者、全国の学校の先生
伝えたい内容	1 つの企画でいくつもの SDG s 活動に結びつけ、興味の異なる多くのスカウト（生徒）の地域活動に参加できる。人生が豊かになる。団体（学校）の広報活動にもつながられる。消費経済の経験になる。

記入日	西暦 2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	ガールスカウト東京都第 172 団
実践番号	20200901A
タイトル	防災公園でオリエンテーリング、公衆電話を使ってみよう！
実践担当者のお名前	指導者

実践にかかった金額	1,000 円未満
実践の準備にかかった時間	2 時間
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 10 月 25 日 9 時 00 分～12 時 00 分
実践の所要時間	3 時間
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	小学生
防災教育の対象者の人数	11 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区、板橋区
実践を行った具体的な場所	東京都城北中央公園
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	ガールスカウト指導者シルバコンパスのスキル、シルバコンパス、公園の地図 (シルバコンパス用、年少スカウト用)

達成目標	(7) 地図の見方を習得する※小学 4 年生以上はシルバコンパス (8) 公衆電話の使い方を体験する (9) ロングウォークに向けて歩く訓練をする	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

<p>実践内容・方法</p>	<p>(5) 指導者実踏・計画書作成</p> <p>指導者が公園長に挨拶。防災教育の一環であると伝えたところ、今後、活動を連携したいとの申し出があったとのこと。次年度活動スケジュール計画時に責任者が訪問することにした。公園の地図取得。公園の地図をコピーしてポイントにしるしを記入。人数分コピーした。</p> <p>(1) 実施スカウト連絡網（電話連絡の実施）</p> <p>集会前の平日 19 時に、指導者から小学生スカウト 1 人へ集会の日時や場所、服装、持ち物、注意点などを電話連絡する。スカウトが次のスカウトへ電話連絡をし、最後のスカウトが指導者に報告する。</p> <p>※集会のたびに毎回実施している。電話のマナーや連絡メモの取り方の学びの機会にしている。保護者には事前に LINE で同様の内容を伝えてはいるが、なるべく手伝わないように伝えている。</p> <p>(2) 9 時：氷川神社集合、セレモニー（朝礼）の後、15 分かけて公園に移動。</p> <p>9 時半：公園着。グループ分け、地図配布。</p> <p>09:40 小学 3 年生以下出発</p> <p>09:45 5 年生チーム出発</p> <p>09:50 5 年生チーム出発</p> 
----------------	---

	 <p>ポイントは 8 か所。防災井戸、防災ベンチ、防災トイレなど 11:00 ゴール。公衆電話体験、緑の募金</p> <p>(2) 振り返り(指導者)</p> <p>天気に恵まれ自己もなく無事に集会を実施できた。コロナ禍の活動制限の中でスカウトが少しでも気分を発散でき、かつ 172 団伝統のシルバコンパス集会、防災教育と様々な希望を踏まえて実施できてよかった。スカウトも楽しんでいただけた。</p>	
得られた成果	オリエンテーリングに防災教育を取り入れてほしいという責任者の希望に指導者が応えて計画・実施された。スカウトは楽しみながら地図と防災公園の設備を学ぶことができた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	中学生、高校生はスケジュールの都合で参加できなかった。そのため、年長スカウトが年少スカウトを支援する集会にはできなかった。通常このプログラムは途中昼食をはさんで行うが、今回は、短時間のコースを設定した。保護者 2 名にも参加してもらい、少人数にグループ分けして密を避け、安全を確保した。時間差で出発し、シルバコンパス組にはなるべく指導者が声をかけず、自分のチカラで進むように配慮した。年少組は楽しく探検するような雰囲気づくりを心がけた。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	東京都城北中央公園
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	地域の子供向け環境教育講座、子供会など
伝えたい内容	親子で楽しみながら防災公園の役割を学ぶ機会になる。防災だけでなく、自然観察や他の要素も盛り込んでハイキングのように行うことが継続のポイントである。

記入日	2021年1月15日（2020年度のチャレンジプラン）
実践団体名	ガールスカウト東京都第172団
実践番号（団体内・年度内の通し番号）	20201101A
タイトル	救急法を体験しよう！
実践担当者のお名前	北崎裕紀子

実践にかかった金額	1,000円未満（会場費）
実践の準備にかかった時間	2時間
実践活動を実施した日時	2020年11月8日10時00分～12時00分
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	4人
防災教育の対象者の属性	小学生、中学生
防災教育の対象者の人数	11人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区
実践を行った具体的な場所	練馬区生涯学習センター会議室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	ガールスカウト指導者、三角巾

達成目標	(10) 応急処置と医療行為の違いを学ぶ (11) 三角巾の役割を学び、実践する (12) 新規入団スカウトと仲良くなる	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	かなり

実践内容・方法

(3) 生涯学習センター会議室を予約する

(4) 指導者が計画書作成し、指導者で共有する

(5) スカウト連絡網（電話連絡の実施）

集会前の平日 19 時に、指導者から小学生スカウト 1 人へ集会の日時や場所、服装、持ち物、注意点などを電話連絡する。スカウトが次のスカウトへ電話連絡をし、最後のスカウトが指導者に報告する。

※集会のたびに毎回実施している。電話のマナーや連絡メモの取り方の学びの機会にしている。保護者には事前に LINE で同様の内容を伝えてはいるが、なるべく手伝わないように伝えている。

(6) 実施

09:45 指導者集合

10:00 スカウト集合

10:00 セレモニー(朝礼)の後、新スカウトの入団式実施

10:30 救急法

指導者から三角巾の説明、応急処置と医療行為の違いの説明の後、実際に三角巾のたたみ方、ねんざ、肘骨折など二人一組で実施。

11:30 ゲーム、ソング

11:55 解散セレモニー、解散

※当団では、スカウトの「いつものとおり」という持ち物一式の中に三角巾も入れている。



(7) 指導者振り返り

実施できてよかったという意見があった。

得られた成果	防災教育を取り入れてほしいという責任者の希望に指導者が応えて計画・実施された。新入団スカウトも緊張しながらも熱心に参加していた。スカウトから後日家庭でもやったと報告があった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	高校生は参加できなかった。高校生が参加できれば、高校生が指導役だった。参加人数の倍の定員の会議室で換気に注意して短時間で行なった。平常時であれば、消防署員に来ていただき、簡易な担架の作り方を学び、担架に乗ってみる体験、地域の別の子供団体と一緒に体験する集会を開くこともできた。	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	地域の子供向け団体、子供会など
伝えたい内容	指導者がいなくても、消防署員に来ていただければ、簡単に開催できて学びの多い体験である。保護者も参加すると家庭での実践に役立つ。担架体験など他のメニューとの組み合わせもできる。忘れたところにまた開催することがポイント。

記入日	2021年1月15日（2020年度のチャレンジプラン）
実践団体名	ガールスカウト東京都第 172 団
実践番号（団体内・年度内の通し番号）	20201102C
タイトル	こども新聞で防災活動を発信しよう！
実践担当者のお名前	北崎裕紀子

実践にかかった金額	5万円未満
実践の準備にかかった時間	1時間
実践活動を実施した日時	2020年8月6日～2020年10月31日
実践の所要時間	10時間
実践の運営側で動いた人の人数	2人
防災教育の対象者の属性	小学生、中学生、高校生
防災教育の対象者の人数	20人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区など
実践を行った具体的な場所	区役所公共スペース、各自の自宅
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	練馬こども新聞社実行責任者 公益団体、区役所や社協、消防署や警察署、商店会などの つながり、新聞発行の経験など。

達成目標	(1) こども新聞で防災の活動の記事を書く (2) 高校生スカウトが小学生スカウトに活動を継承する (3) こども新聞を地域に配布し防災活動を広報する	
どの力を身につけよ うとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p>(5) 準備</p> <p>① すずらん新聞とは？</p> <p>練馬こども新聞社が年に 1 回発行している新聞。こども新聞社とは、ねりまキッズボランティア（以下キッズ）と当団有志のスカウトからなる団体で、双方の団体責任者が運営委員になっている。完全アナログ製作で、こどもがこどものことばでこどもの文字で記事を書くところが特徴。新聞は、公益財団法人練馬区環境まちづくり公社みどりのまちづくりセンターの後援頂き、区役所の書類配布ルートで教育委員会や子育て関連の課、児童館、図書館などに約 1,000 部配布される。当団は、約 1,000 部、スカウトの出身幼稚園や学童保育、地域関連団体、ガールスカウト連盟事業などで配布し、スカウトの活動報告とリクルートに役立てている。キッズは、「自分の書きたいことを取材して書く」が基本で、当団は、スカウトが活動報告記事を書くことが多い。</p> <p>費用は約 4 万円で、例年キッズはフリマの売り上げを、当団はスカウトが環境団体のお手伝いをして頂く謝礼を充てている。広告は入れていない。今年度当団は、状況次第で賛助会費を募ることも踏まえて実施することにした。</p> <p>異なる 2 団体のこどもとスカウトがそれぞれ記事を書くため、地域で喜ばれて 4 号を発行するまでになった。</p> <p>② 責任者打ち合わせ</p> <p>キッズ責任者と「すずらん新聞 4 号」の発行時期、予算、内容、ページを確認した。こども記者が消防署取材を予定しているとのことなので当団スカウトの参加を依頼した。※後日消防署の取材人数制限で当団は不参加になった。当団は、モノクロ 1 ページとカラー 1 ページ。</p> <p>(6) 8 月 としまえん取材</p> <p>メイン記事の「さよならとしまえん」でキッズがとしまえんの取材に行くことになった。当団も有志参加を募り、小学生スカウト 2 名と高校生スカウト 1 名が参加した。新聞記者としては高校生スカウトが 3 回目の参加、小学生スカウト 2 名は初</p>
---------	---

めての参加となる。キッズ責任者のご配慮で当団スカウトもとしまえんで 1 ページ頂けることになった。

(7) 8 月 リモート会議

キッズとスカウト約 10 名で全体会議。役割分担と納期を確認した。

(8) 8 月 当団記事割り振り

高校生スカウトが、指導者と相談してカラー防災活動報告、モノクロはボランティアの活動報告を掲載することになった。

(9) 8 月 小学生スカウトと高校生スカウトで記事作成

高校生スカウトが、小学生スカウトと日程調整し、公共スペースを数回借りて、としまえんの記事を作成した。ボランティア活動の記事は、高校生がデザインし、小学生から大きさを指定した紙に感想を書いてもらって送ってもらい、記事に張り付けた。



(10) 9 月下旬フリーマーケットで防災ポーチ販売

キッズが新聞費用を稼ぐために 9 月末にフリマに出店することになった。高校生スカウトと相談し、高校生スカウトも防災ポーチを販売し、それを記事にすることにした。記事は 10 月に書くことになった。通学先の異なる高校生スカウトとの日程調整がつかず、スカウトが指導者と話し合っ、記事作成は、通学先の友人と行うことになった。

※この時点で記事の内容とスケジュールのめどがついたので、高校生スカウトが新聞発行の計画書を作成して指導者に提出した。

(11) 10 月 防災記事作成

スカウトの友人がデザインしてくれた、防災ポーチのポスターや防災カードの写真、小学生スカウトのマイ防災ポーチ写真などを張り付けて記事にした。

(12) 10月末 記事提出

キッズ責任者に当団分の記事を提出。

会計と相談し費用負担は2団体で折半。スカウト保護者に回付先と部数を確認して

(13) 11月 印刷⇒発行

印刷はネットで探した業者に発注している。



(14) 12月2団体で配布開始

(15) 12月 区立光が丘図書館から蔵書にすると連絡があった。

(16) 12月 練馬消防署の掲示板 HP で間違い探しの記事が紹介された。



得られた成果

(1) ~ (3) の目標を達成した。ガールスカウト東京都連盟事業リモート会議で当団の防災教育活動をスカウトがプレゼンするときに見せてわかりやすい説明に役立っている。責任者、指導者も同様に活用している。小学生スカウトが学校でクラスメイトに配布した。小学生

	から、新聞製作はまたやりたい！とコメントがあった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦勞・工夫	スカウトの記事が納期に間に合わないのではないかとハラハラした。しかし最終的に高校生スカウトが、デザイン、記事作成、小学生スカウトとの日程調整や共同作業をやり切った。指導者と進捗状況を相談し、状況次第で応援を入れる体制と信頼関係づくりが課題になった。小学生スカウトの防災集会が新聞製作以降になったこと、夏休み以降高校生と小学生の日程調整が難しかったため、防災記事を小学生スカウトとの共同作業にすることはできなかったことが残念だった。次年度発行に向けて社会福祉協議会を通じて助成金を申請している。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	ねりまキッズボランティア責任者
関係者の説明	地域のこども団体の責任者
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	地域の子供団体、学校
伝えたい内容	新聞教育を取り入れている学校、団体は多いが、実際に地域で読んでもらえる新聞を発行している学校、団体は少ないと思う。行政やその外郭団体などに後援をしてもらえると公共のルートで配布することができる。こども記者たちの自己肯定感を高め地域活動を運営する側の大きな財産になる。

記入日	2021 年 1 月 15 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	ガールスカウト東京都第 172 団
実践番号	20201103A
タイトル	そなえよつねに！防災ロングウォーク 25 キロ歩こう！ ユニセフラブウォーク企画
実践担当者のお名前	北崎裕紀子

実践にかかった金額	1 万円未満
実践の準備にかかった時間	18 時間
実践活動を実施した日時	2020 年 11 月 22 日 07 時 00 分～15 時 00 分
実践の所要時間	8 時間
実践の運営側で動いた人の人数	6 人
防災教育の対象者の属性	小学生、中学生
防災教育の対象者の人数	11 人
実践を行った都道府県と市区町村	東京都練馬区、板橋区、北区、豊島区
実践を行った具体的な場所	練馬駅（平成つつじ公園）⇒城北中央公園⇒東山南公園⇒ なかいだち公園⇒稲荷台おなり橋緑地⇒加賀公園⇒飛 鳥山公園⇒西ヶ原みんなの公園⇒東池袋 2 丁目第 3 公園⇒ 池袋⇒江古田⇒練馬駅（平成つつじ公園）
★実践に必要なだった特定の能力を 持った人・物品・ツール・知識等	実踏表の作成、スカウト配給食料（パン、みかん、おや つ）小学生向け「川の生物記入カード」、スカウトお迎えグ ッズ。引率担当者は、トイレ紙と、小学生低学 年用に替えのパンツを持って歩く。

達成目標	(13) スカウト・保護者が災害時でも長距離を歩けるように する (14) 途上国では学校に行けず毎日長距離を家族のために水 を運んで歩く少女がいることに気づく (15) 水辺の生物を探してウォーターバッジの取得（水辺の 学び） (16) 防災公園を結ぶルートを構築する (17) 保護者がスカウトの安全確保、運営を学ぶ機会にする
------	--

どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し（大いに）
	思考力・判断力・表現力	少し（大いに）
	学びに向かう力・人間性	大いに（大いに）
実践内容・方法	<p>※上記（）内は、指導者運営者参加保護者</p> <p>（1）ルートの確定 候補の中から地図で仮ルート作成、実踏表作成</p> <p>■例年のコースと体制 山手線一周、大江戸線一周など周回コースを歩く。都内周回コースのメリットは、災害時どこにいても帰宅ルートになりやすいため、防災訓練として適切、集会当日アクシデント時も本部や保護者が対応しやすい、体力的がなく遅れるスカウトを数駅電車に乗せてワープさせられる、などである。小学3年生までは約20キロ、4, 5年生は30キロ、6年生以上は40キロから50キロになるようにコース設定をする。16時参加の、父親（男性）を募る※朝から歩く指導者の疲労と暗くなること、繁華街通過などでリスクが増す。そのため、スカウトの安全のために疲労していない男性を追加する。大人が反射帯をつけ、スカウトを囲むようにして歩く。中学生以上のスカウトには、当日、実踏表を渡して交代で先頭を歩く。飲食などの持ち物も自分で考えて用意し、集会後、過不足などの報告をする。</p> <p>実踏表には、最寄の避難場所（公園）情報を載せる。万が一事故や災害が発生した場合には、最寄の公園に向かい待機する。本部責任者または保護者にスカウトを引き渡すまでを指導者の責任とする。責任者はスカウトを保護者に引き渡すまでを責任とする。</p> <p>■今回コロナ禍での変更点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬駅発着にする※電車移動を縮小するため ・石神井川沿いを中心に歩く※密を避けるため ・距離を短縮し、全員約25キロとする。 ※日中早い時間に終了させるため ・防災公園をつなぐコースで、休憩場所は防災公園にする※トイレが必ずある 	

・荒天時、コロナの状況では中止する

(2) ユニセフラブウォーク申し込み

毎回、参加者が募金をして出発する。責任者が「今日歩く距離を家族のために水を運んでいる少女のための募金」と伝えて出発する。

(3) ■実踏

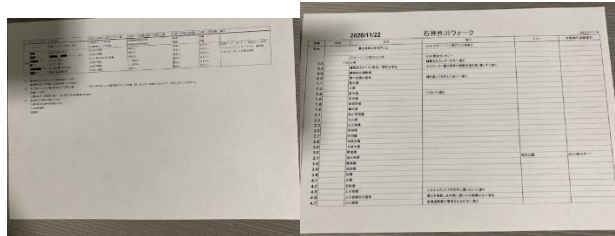
当日歩く大人全員で同じ曜日・時間で確認しながら歩くことが望ましい。下記日程に合わない指導者は他の日に歩いた。

初回：10月11日 13時練馬駅出発 16時飛鳥山公園着

二回目：11月8日 14時飛鳥山出発 18時練馬駅着

※道路工事などの進捗でルートが変わる可能性があるので、なるべく開催直前がよい。

時節柄コンビニのトイレを借りられないので、公園トイレの確認は入念に行った。当日は指導者がトイレトーパーを持つことにした。当初、飛鳥山を昼休憩に想定していたが混雑するので、西ヶ原みんなの公園に変更。おやつやパンなど配布タイミングと配布量を確認する。





■本部実踏 10月15日、10月21日

休憩ポイントを電車で移動して、誰がどこをいつどのようなルートで移動するとスカウトや指導者のアクシデント対応や、励ましになるかを確認する。食料や飲料を追加購入する場合の店舗も確認する。荒天時は、昼休憩の場所を変更する。

(4) 役割分担

参加スカウトを2班にわけて、指導者と保護者を配置した。歩く保護者は、娘のいない班に配置。辛くなり親に頼るスカウトが出てくるため。リタイヤするスカウトが出た場合には、保護者が対応。指導者は他のスカウトを連れて先に進む。

	<p>本部は、飲食の補給、応援、募金箱の管理。疲れて荷物を背負えなくなったスカウトの荷物を一部預かる（軽くしてあげる）など。</p> <p><u>今回のルートは、防災公園を渡り歩くルート。当日事故や災害が発生した場合には、次の公園に進むか、前の公園に戻るかの判断をし、本部へ連絡をする。スカウトと指導者は公園で待機し、保護者、本部の迎えを待つ。保護者又は本部にスカウトを引き渡して指導者の役割終了。</u></p> <p>※当日までに都合で歩けなくなった指導者が何人でたら中止にするか？本部から引率担当に変更できる指導者、保護者は何人いるか？を検討する。</p> <p>マスク着用、持ち物に消毒液を追加した。</p> <p>(5) スカウト連絡網（電話連絡の実施）</p> <p>集会前の平日 19 時に、指導者から小学生スカウト 1 人へ集会の日時や場所、服装、持ち物、注意点などを電話連絡する。スカウトが次のスカウトへ電話連絡をし、最後のスカウトが指導者に報告する。</p> <p>※集会のたびに毎回実施している。電話のマナーや連絡メモの取り方の学びの機会にしている。保護者には事前に LINE で同様の内容を伝えてはいるが、なるべく手伝わないように伝えている。</p> <p>(6) 実施</p> <p>天気に恵まれ、初参加の 2 人も含めて全員自分の荷物を背負って完歩。小学生スカウトは、川の生き物をカードに記入した。</p> <p>(7) 振り返り、募金入金</p> <p>4 年生以上には物足りない距離だったと反省があった。</p> <p>集会後、電車通学の小学生から、「学校と自宅の往復するくらいの距離を歩いたことがわかった！」と報告があった。父親の参加が多かった。年頃の娘と同じ体験をし家庭でも防災の話ができてよかったと報告があった。</p> <p>(8) 例年は実踏の様子を含めて 4 回～5 回に分けてブログで集会の様子を報告する。スカウトや保護者も他のコースの様子がわか</p>
--	--

	<p>る、スカウトの成長記録になると人気の企画である。しかし今回は、ロングウォークを実施し、ユニセフ募金をしたことのみをブログで報告した。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">   </div>	
<p>得られた成果</p>	<p>コロナ禍でもルートや距離を調整して成功させたことは団として大きな経験になった。保護者にも早い段階から理解と応援要請したことが成功につながった。保護者と一緒に責任者が本部を担当した。次回は本部の役割や準備を保護者が運営できるように情報共有した。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり（大いに）</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり（大いに）</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに（大いに）</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>※上記（）内は保護者と運営側。1 家庭は、感染症防止を理由に不参加だった。参加した家庭からコロナ禍でネガティブな意見があるので集会はブログで広報しないしてほしいと意見があり団での広報は控えた。高校生はスケジュールの都合で不参加だった。</p>	
<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>		
<p>伝えたい相手</p>	<p>地域の子供団体、学校</p>	
<p>伝えたい内容</p>	<p>町を歩くと、点字ブロック、メロディ信号、シェア自転車、様々なものがある。「交差点に名札がついている」ことを知った子も。企画と運営で大人の防災意識とスキルが高まり、大人もスカウトも達成感が得られる。防災公園を結ぶルートにすることで防災公園の役割や場所を知ることにつながる。</p>	